令和7年度第2回北海道立図書館協議会　議事録

日　時：令和7年12月17日（水）13:30～15:00
会　場：北海道立図書館　研修室
出席者：○協議会委員
河村会長、小澤委員、加賀委員、出村委員、乗田委員、羽毛委員、藤田委員、三ツ山委員、村橋委員
●道立図書館職員
岸本館長、立花副館長、伊勢総務企画部長、中田利用サービス部長、工藤一般資料室長、小川北方資料室長、原田管理課長、伊藤企画支援課長、原一般資料サービス課長、今野資料整備課長、西岡北方資料サービス課長
傍聴者：0名

議事等
1　議題
（1）令和7年度北海道立図書館業務の実施状況（中間報告）について
（2）その他

議事録（○～委員の発言　●～道立図書館職員の発言）

●（原田管理課長）
お疲れ様です。時間になりましたので始めさせていただきたいと思います。本日はお足元の悪い中、お集まりいただきありがとうございます。
ただいまから令和7年度第2回北海道立図書館協議会を開会いたします。始めに館長の岸本より御挨拶を申し上げます。

●（岸本館長）
皆さん、こんにちは。令和7年度第2回北海道立図書館協議会の開会にあたりまして、御挨拶申し上げます。
皆様には、年末の御多用な時期にもかかわらず、当協議会に御出席をいただきまして誠にありがとうございます。

また日頃から、当館の事業推進に当たりまして、御理解・御協力をいただいておりますことに重ねて感謝を申し上げます。ありがとうございます。

さて本協議会につきましては、8月に開催した第1回会議におきまして昨年度の業務実績について御説明し、御意見をいただいたところでありますけれども、本日第2回目の会議におきましては、今年度の運営計画に沿って取り組みを進めている各種事業に関し、上半期の実施状況を中間報告として御説明申し上げまして、御協議をいただくこととしております。

当館といたしましては、上半期の各事業の実施状況について、計画の進捗状況の確認・点検を行うことにより、成果と課題を明らかにして、下半期の取り組みに反映させてまいりたいと考えております。

各委員の皆様におかれましては、それぞれのお立場から忌憚のない御意見等をいただきますようお願いを申し上げます。

以上、簡単ではありますけれども開会に当たっての御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

●（原田管理課長）

私から2点ほど御報告させていただきます。

1点目は協議会委員の出席状況についてです。本日、福田副会長ちょっと遅れておりますけれども、参加いただけるということで御連絡いただいておりますので、Zoom参加の委員も含めまして10名全ての委員が出席しており、北海道立図書館協議会条例施行規則第4条による委員の過半数の出席という会議の成立要件を満たしておりますので、御報告をいたします。

2点目は、会議の公開についてです。北海道立図書館協議会傍聴規則に基づき、傍聴につきまして、ホームページ上などで周知をいたしましたが、傍聴希望者はおりませんでしたので御報告いたします。

なお、本日の会議につきましては、北海道で定めております附属機関等の設置又は開催及び運営に関する基準に基づきまして、議事録を文書で作成することとなっております。後日、公開を予定しております。つきましては、発言者名や発言内容を記録させていただくこととなりますので、あらかじめ御了承をお願いいたします。

続きまして、資料の確認に移りますけれども、お配りしている資料は2点となっております。資料の1が、令和7年度北海道立図書館業務の実施状況（中間報告）の概要版、資料の2といたしまして、業務の実施状況（中間報告）の本体となっております。これに加えて、本日、令和7年度北海道立図書館業務実施状況（中間報告）に係る意見等のペーパーをお配りしております。御確認をお願いいたします。

それでは早速ですが、議事に入りたいと思います。 議事の進行につきましては河村会長にお願いをしております。河村会長よろしくお願いいたします。

○（河村会長）

皆さん、こんにちは。本日もお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。それでは、委員の皆様の御協力をいただきながら、本日も効率良く議事を進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日の議題ですが、2点あがっております。1点目が、令和7年度北海道立図書館業務の実施状況（中間報告）について、2点目がその他となっております。

それでは、議題1の令和7年度北海道立図書館業務の実施状況（中間報告）について説明をお願いいたします。

●（中田利用サービス部長）

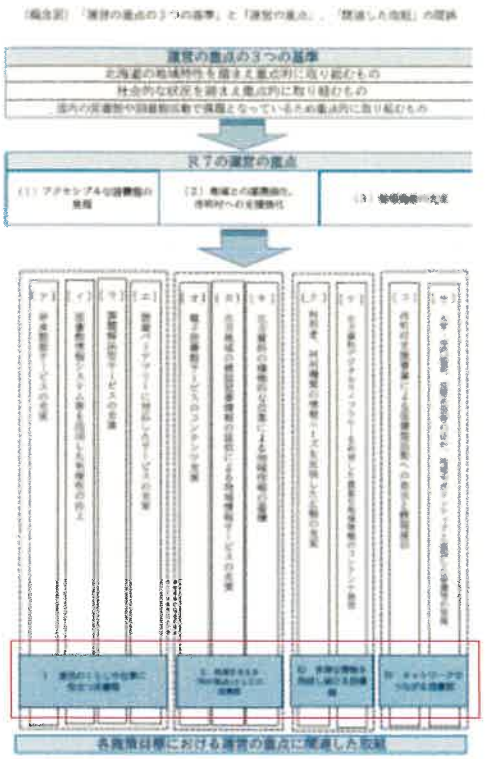
皆さん、こんにちは。利用サービス部長の中田でございます。

令和7年度業務の実施状況について説明いたします。基本的に資料1、令和7年度北海道立図書館業務の実施状況（中間報告）概要版に沿って説明いたしますが、皆様は、どうぞ画面の写真を御覧いただきながら、お聞きください。なお、事前に皆様からお寄せいただいた質問等につきましては、後ほど各担当課長から御説明したいと思います。この後は座って説明させていただきます。

始めに、この中間報告の位置付けについて簡単に説明します。道立図書館では、運営の基本方針を三つ定めてございます。そして、この三つの基本方針に基づき中期計画にあたるものとして、5年毎に事業推進計画を策定しており、現行の第4次推進計画では、重点的に取り組む施策がより明確になるよう基本的な目標及び四つの施策目標を掲げました。それから、単年度で策定する運営計画には、推進計画で設定したこの四つの施策目標を柱として、当該年度毎に、特に重点的に取り組む施策や事業等を位置付けています。

令和7年度の運営の重点としては、こちらの三つを定めました。

本日御説明する業務の実施状況（中間報告）は、これらの取組の上半期における実施状況について、成果と課題を明らかにし、下半期の取組に活かすことを目的としております。



こちらは資料2、中間報告本体2ページにあります概念図です。下の段のローマ数字ⅠからⅣは推進計画で策定した四つの施策目標に則っています。令和5年度から9年度の間の計画及び報告は全てこの四つの施策目標を柱に構成しています。上段の枠内(1)から(3)が今年度の運営の重点であり、中段(ア)から(サ)の11の取組を進めております。

ここから先は資料1、中間報告概要版に沿って、昨年度と異なる部分を中心に御説明いたします。

まず政策目標Ⅰから説明します。今年度は5年に一度の図書館情報システムの更新年に当たっており、その準備を進めております。主な改良点については、このあと、工藤室長から御説明します。

また、昨年度は工事のため休止していたイベント関係を再開しました。書庫ツアーを2度開催し、共に参加者から好評を得ています。そして障がいのある利用者が自ら読書できるよう音声読書機などの備品を整備しました。今後の方向性としましては、読書バリアフリーのため、やさしい日本語を使用した利用案内を完成させ配付するとともに、ホームページに掲載する、としています。

こちらは、北方資料室の書庫ツアーの写真です。参加者たちが資料をのぞき込んで、興味深そうにしている様子が伝わるかと思います。

もう一つ、話題といたしまして、北海道新聞の12月2日の記事で、道立図書館の電子図書館について取り上げられました。そのことが来館しての登録や利用はもちろん、郵送による登録申込みや、更に協力館受付方式による利用登録に大きく影響がありました。今回は、当方から仕掛けたものではなかったのですが、文化面ではなく暮らし、特にシニア向け経済という、この欄の反響の大きさに驚くとともに、今後の広報戦略といいますか、こちらとしても大変参考になる事例として実感したところです。

続きまして、施策目標Ⅱからは、電子書籍の整備について御説明いたします。年2回に分けて選択整備していく計画を立てております。選定する基準については、資料2、中間報告本体8ページに挙げた5項目としています。1回目の選択コンテンツは既に決定しており、契約手続等を経て、年明け1月中旬に公開の予定となっております。今後の方向性としましては、電子書籍の利用状況を踏まえつつ収集していく、としています。

それから寄贈による北方資料の例を紹介いたします。前回の協議会後に加賀委員から池田町の小学校・中学校の閉校記念誌5冊を寄贈いただきました。地域の歴史の記録である貴重な資料をお手配いただきありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。また、先ほど三ツ山委員から地元の帯広市図書館で配布している資料を寄贈いただきました。これについても道立図書館の資料として保存していきたいと思います。どうもありがとうございます。

続きまして施策目標Ⅲからは、北方資料デジタルライブラリーの公開点数が221点、例年は年間100点程度ですが、昨年度に公開まで至らなかったコンテンツが含まれ例年より多く公開を行ったところです。また、アクセス件数や利用申請件数について、安定した実績となっています。今後の方向性としましては、図書館情報システムの更新に合わせたデジタルライブラリーの改修により利便性を向上させる、としています。

最後に、施策目標Ⅳからは関係機関との連携を紹介します。まずは、雑誌スポンサーとして、江別市内の1団体、江別友の会様から申し出があり、「婦人の友」を寄贈していただくことになりました。江別友の会様は、この雑誌の愛読者グループであってその精神に基づいた活動の普及を目的としています。

それからこちらの写真、左側はコンサドーレとの連携事業で、8月30日の大宮戦が大和ハウスプレミストドーム（正式名称は札幌ドーム）で行われ、そこでのイベントの様子です。コンサドーレ様には雑誌スポンサーとしても協力いただいているほか、このような連携事業を不定期で実施しています。この日は、コンサドーレの試合のキックオフの時間までオープンする子ども向けの「ドーレくん広場」において、防災をテーマに道立図書館のブースを設置し、大型絵本などに触れ合ってもらいました。

右側の写真は、かるちゃるネットのイベントの写真です。かるちゃるネットについては、資料2の3ページに少し補足説明があるのですが、新札幌から江別市にかけてのエリアにある博物館や水族館、図書館など10施設によるネットワークです。道立図書館もこのネットワークに参加しておりまして、この写真のときは9月、新札幌のサンピアザ1階にあります「光の広場」そこでのイベント、イベントのタイトルがすごく長いのですが、「発見・体験　文化の秋　～遊ぼう！学ぼう！あつべつ・えべつ～」というイベントの様子です。かるちゃるネットでは参加施設のパネル展示や体験イベントを年に一、二回実施しています。この日の図書

館の出し物は、「秋をたのしむおはなし会」と題して、30分のおはなし会を2回行いました。
どちらも資料展示や出張利用登録会を実施し、認知度の向上に努めたところです。

市町村支援事業（講師派遣）

こちらの写真は、市町村支援事業です。これは7月に岩見沢市立図書館に伺いまして、ボランティア向け研修会を開催したときの様子です。左側の写真が、前半の時間なのですけれども、テーマを「読み聞かせと著作権」としまして、○×形式の問題を出して、正しいと思う方に挙手をしてもらうような座学を行いました。右側の写真は後半で、テーマ設定としては「読み聞かせと本の選び方」ということで、絵本選びの参考となる本と雑誌を会場で展示し紹介したあと、館内検索機を使って絵本の検索体験を行いました。

施策目標Ⅳの今後の方向性としましては、大学・専門機関、民間企業等のほか地域やボランティアと連携した事業の拡充を図る、としています。

以上で資料1、中間報告（概要版）の説明は終了します。

施策目標ごとに目標指標を設定しており、その実績値は資料2に掲載しています。私からの説明は以上です。御清聴ありがとうございました。

●（工藤一般資料室長）

続きまして私から、来年3月に控えておりますシステム更新について説明いたします。一般資料室長の工藤でございます。よろしくお願いいたします。

来年2月25日から3月10日にかけて蔵書点検と併せて、システム更新のために休館して準備を行います。この度の更新により加わる新たな機能として、利用者カードのバーコードをスマートフォン等で表示できるようにし、それの提示による貸し出しが可能になります。

また、ホームページについては、前回いろいろいただきました委員の皆様からの意見も参考に、ユニバーサルデザインに配慮した上で、できるだけ見やすいものになるよう構築を進めます。そして北方資料デジタルライブラリーについては、現行システムがサービスを終了することに伴い、新たな構築業者によるベースプログラムへの変更になります。基本の機能は引き継ぎつつも、検索や閲覧の操作性向上を目指し、現在調整中です。

また、電子図書館サービスとの違いがわかりにくい等のお声もいただいていることから、よりわかりやすい名称への変更を予定しております。

現在、システム業者と細部を詰めながら準備を進めているところです。次回の協議会で全容をお伝えできるかと思います。私からの説明は以上です。

○（河村会長）

よろしいですか。ありがとうございます。今、中間報告の説明をいただきました。それから

システム更新についてもお話をいただきました。

ただいまの説明につきまして、質問、御意見等ございましたら御発言願いたいと思いますが、事前に出村委員から2点質問が寄せられています。先ほど事務局のほうでもお話しておりましたが、録音して議事録を作成しておりますので、出村委員、大変申し訳ないのですが、もう一度質問の趣旨をお読み上げいただいて、回答いただくという形にしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○(出村委員)

はい。北海道PTA連合会事務局次長の出村でございます。 前回の会議欠席をしてしまい申し訳ありませんでした。

中間報告でありながら非常に細かい質問で大変申し訳なかったのですけれども、概要版にありました数字の部分で、いわゆる登録者数、去年と比較すると100名減ってるなということがわかったものですから、何かそこに要因があるのかなと。きちんと、既にたくさんの取り組みをされている中でのことだったものですからちょっと聞いてみたいなというのと、それからツアーを二つ、あとこれからもということで計画をされていますが、それはツアーを計画したときにある程度のいわゆる期待数があって、その中でのこの数だと思うのです。その期待数に対してどうだったのかということを聞きたかったものですから、細かくて申し訳ないのですが、よろしくお願いいたします。

●(原一般資料サービス課長)

はい。そうしましたら最初の登録者数についてお答えしたいと思います。一般資料サービス課の原と申します。 よろしくお願いいたします。

石狩地域以外の登録者数につきましては、この協力館受取方式(以下、協力館)を始める前の令和5年9月末時点で250名で、昨年始めまして9月末現在で545名で、今年度は443名という数字になっております。で、協力館による利用登録を開始したことで潜在的な登録希望者が掘り起こされるということが起きたと思われまして、令和6年度は予想以上に多い利用登録がございました。

実際に登録のところを見ていきますと、協力館の職員の方が、まずは自分の館の職員の利用登録をしてそれから自分の町の方に広報していくというような形で、今までちょっとやってみたいけどなかなか方法がないなと思っていた方をここで掘り起こせた、というような感じを6年の時点で受けておりました。

今年度につきましては、協力館での利用登録の際に道立図書館のほうも作れますよというような形で登録をしていっていただいている状況となっておりまして、登録者数については落ち着いて、大体これが通常ベースなのかなと考えているところです。以上です。

●（西岡北方資料サービス課長）

北方資料サービス課の西岡でございます。私からは、書庫ツアーに関する御質問に対してお答えをいたします。

子ども書庫ツアーは8月8日に実施しましたが、定員15名のところ9名、60％の参加がありました。北方資料室書庫ツアーは8月9日に実施いたしまして、定員20名に対し定員まで申し込みを受け付けたところ当日までにキャンセルがありまして、結果として18名、90％が参加しました。

北海道立図書館書庫ツアー、これは11月8日に実施したものでありますけれども、こちらは定員20名のところ22名の申し込みを受け付けまして、当日欠席された方がいらっしゃいましたが、定員を満たす20名の参加ありました。

事業の報告は「図書館報」に掲載いたしますけれども、北方資料室の書庫ツアー、8月9日のツアーについてはホームページの北方資料室のページ、これまでの講座、講演会等にごく簡単ではありますが掲載しておりまして、次の参加意欲をこれからも喚起していきたいと考えております。以上です。

○（出村委員）

ありがとうございます。

○（河村会長）

はい、ありがとうございました。ほかの委員の方、中間報告につきまして何か御意見・御質問等ございませんでしょうか。はい、ではお名前を述べて御発言お願いいたします。

○（小澤委員）

専門図書館協議会の推薦で来ております小澤といいます。よろしくお願いします。ちょっと中間報告からは離れる部分があるかもしれませんが、参考意見的なものとして発言させていただきます。

電子図書館のホームページを時々見せてもらっています。動くデザインも良くて、綺麗で、最近のランキングだとか、新しいやつだとかというのをサムネイル画像入りで出てきてます。利用しやすいものになってるな、という印象を持っています。また、ちょっとよくわからないのですけれど、旅行の雑誌を確か出していますよね、下のほうに。確かにああいう雑誌は何かないと買わないですけれども、あそこでぱっと見れると便利だなと思って、電子図書館ってけっこう雑誌が充実してると使いやすいのかなという印象を持ちました。

また、本体のほうのホームページも改良予定ということで、ああいう感じになるのかなとちょっと想像していたのですけれども、充実させていただければなと、改良していただければなと思いました。

ただですね、電子図書館だけではないのですけど、ちょっと残念なのは、私は、これが読みたいなと思って検索しても、なかなかヒットしてくれないということがありまして、道立図書館としての選書の役割というか、市町村とはまた違うとかですね、予算的な制限もある中でいろいろ選書されてるのかなとは思うのですけれども、利用者を増やしていくためにはやっぱり利用者のニーズというか、私が代表してるわけじゃないのですけれど、そういうものにも応えていく必要があるのかなというところ。その辺のバランスもとらなければいけないのかなっていうところがあると思います。考えると、検索キーワードを参考にしながら選書するというのが良いのではないかと思った次第なのですが、今、選書のやり方として、そういう情報は使われてるのかなと疑問に思ったんですね。というのは、蔵書検索する、電子図書館でも実際に検索する…誰々さんの、著者の名前だとか、タイトルのキーワードだとかっていう…検索するということはそういう情報を求めているということだと思うので、それを使えば、そういう情報を見れば、こういうニーズが今来てるのだなというのは、司書の方がそういうものを見れば、けっこう当たるのではないか、というか利用されるものを選べるのじゃないかなと、ちょっと思ったのですけれども、今そういうものは参考にされてるのでしょうか。

●（今野資料整備課長）

私、資料整備課の今野と申します。よろしくお願いします。

電子書籍の選択の方法なのですけども、現在、例えば皆さんが電子図書館でどのようなキーワードを検索してるかというのは、こちらでは把握できてない状況です。なので、皆さんが探してるものを元にというよりは、現在の電子書籍の選択の方法としましては、KinoDenを使ってるので、紀伊國屋書店さんに、前回選んだ分からある期間までに出版された全ての電子書籍のリストを送ってもらって、その中から図書館が利用できるものを各職員が見て選択しているという状況となっております。

一般的には読み物とか、おそらく小説とかが皆さんお探しになることが多いのではないのかなと思うのですけれども、予算に限りのあることもありまして、後ほど少し説明いたしますけども当館の資料選定基準で合致するもの、それに基づいて、選書してるという状況になっております。

●（工藤一般資料室長）

一般資料室長の工藤でございます。若干補足させていただきます。

まず検索キーワードなのですけれども、これはデータを取得する方法がございませんので、ちょっと参考にはできないというところがあります。例えば、私どものOPACでの検索もそうなのですけれども、おそらく皆さん膨大な数の検索をされてるのだと思うのですが、そういったところをデータで取るということは、図書館のシステムもそうですしKinoDenのシ

ステムでもそうなのですけれども、そういった部分の取得はできないので、そこは参考にすることが難しいです。

データを取る方法としましては、何を閲覧したかというところの回数をかなり細かく取得することができます。ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんけれども、KinoDenのシステムについては、入ってないコンテンツも試し読みができるようになっていますので、試し読みでその入ってないコンテンツがどれぐらい見られたかということは、データとして取得が可能なので、そういったところは選書の参考にしていくということは可能になっております。

統計についても、どのコンテンツが何回利用されたかというところは取れるのですけれども、KinoDenにログインをコントロールする機能がなくて、各図書館の図書館システム側のほうでログインをきちんとした人を電子図書館に飛ばしてくださいというシステムになってるものですから、KinoDenの利用者で、例えば年齢層ですとか、そういった利用者の統計というものは取れないようになっておりますので、そういったところもなかなか参考にできない状況ではありますので、主にどのくらいの方が入ってないコンテンツを見てるですとか、あとは私どもの選択の基準によって、前回選択した以後の新しいものの中から担当課で選択をして選んでいるという状況になっております。

○(河村会長)

ありがとうございます。検索キーワードは、確かに膨大なので、システム的にちょっと難しいところがあるのかもしれないな、とはわかりましたけど、何らかの形でニーズを捉えて、資料を整備していくというのも、利用者を増やすという目的からいうとあってもいいのかなと思った次第です。

電子図書館もページが使いやすくて、私、気に入ってますので、ぜひ充実していただければと思います。よろしくお願いします。

電子図書館の事について、今お話いただきましたけれど、やっぱり、そもそもコンテンツが少ない。利用者がどんなものを望んでいるかということが把握できないというお話だったと思うのですけれども、今、道立図書館に紀伊國屋さんから全ての電子書籍のリストが来ていて、道立図書館の職員の方がその中から選書しているということを伺いましたけれど、キーワードのほうは、昔のコンピュータ化されてきた頃とは違って今は無理だと思うのですけれど、図書のリクエスト制度というのはけっこう定着しているのかなと思うので、一つちょっと聞いていての提案なのですけれど、その全てのリストというのをホームページか何かで公開するということはできないのですか。

例えば、利用者が電子書籍ってどんな種類が出ているのかということ自体がわかってないと思うんですよ。だから、せっかくそのリストが来ているのであれば、道立図書館のホームページか何かで、電子書籍がこういうものがあると。選書は職員がされていて当然良いのですけれど、その中で利用者の方から希望があればポイントを入れてもらうみたいな、リ

クエスト制度みたいな、その後にそのリクエストに応えられるかどうかというのは、図書館側の問題にはなってくると思うのですけれども。

私もそうなのですけれど、どれだけの電子書籍が出ていて、どういうものがあるのかなと。道立図書館が持っているどうのこうの問題の前に。何を言ってるかというと、世の中で、車を電気自動車化していこうという動きがあっても、利用者の方がガソリン自動車から離れられないのと同じように、電子書籍って定着するのは、まだまだ先の話かなと。

さっき小澤委員から、雑誌はうまくいっているようだという話がありましたけど、やっぱり利用者のニーズの問題で、通読するものじゃなくて、雑誌とかというのは試し読みとか拾い読みとか、つまみ読みとかいうような、ちょっとそういうニュース的な使い方をするというのには電子は向いてるけれど、今はまだ、利用者も喜んでいないかな、という気がするのですよね。それを道立さんが、せっかく少し登録者が増えてきて、普及していこうということであれば、電子書籍って今こんなものが用意できてるんですよ、といってそれを購入するかどうかは別ですけど御希望があれば、というような利用者へのアプローチの仕方というのは面白いかなと、聞いていて思ったのですけど。御参考までにです。

ほかの委員の方、何か御意見とかございませんか。

電子書籍に関しては本当にいろんな意見があっていいかと思いますし、これからもっと便利になっていくと思うのです。中間報告の中で挙がっているのは、やっぱり北海道広いですから遠隔利用ということで、電子書籍が有効だということは、この利用登録の伸びから見ても明らかなわけで、あとはその利用の仕方、利用者が喜ぶような電子書籍が出てくるかどうかというのは出版社側の問題によるのでしょうけれども、大事なところかなとは思ってます。

この電子書籍以外でも構いませんが、何か御意見あれば、いかがでしょうか。はい。お願いいたします。

○（加賀委員）

ちょっと電子書籍と外れるかもしれないのですけれども、3点ほど質問をさせていただきます。

本体部分の1ページになりますが、一番下の基本的な目標のところで、現状値、実績値、目標値とありますけれども、この実績値が令和3年度の現状値より相当下がっているということがありますが、この辺はどういう原因というか、分析をされているのかお伺いをしたい。

それから同じような中身なのですけれども、事業推進計画における目標指標とありますが、7ページですか、ここも⑤とか⑥は、けっこう令和3年の現状値よりも、今年9月までの実績値が下がっている。それから、14ページもそうですね。現状値よりも実績値が下がっていると。当然原因は考えられていると思うのですけれども、その分析をされているのかということをお伺いしたいということ。

最後のもう1点は、逆の視点なのですけれども、目標値に比べて実績値が既に上回ってるものもありますが、こうした場合は、令和9年度の目標値をまた見直したりはするのでしょうか。3点教えていただければと思います。

●(中田利用サービス部長)

利用サービス部長の中田でございます。質問ありがとうございます。

一つ目の質問と二つ目の質問は、ページが違うだけで同じ内容かなと思ったのですが、それでよろしいでしょうか。1ページ目と7ページ目の現状値と実績値でよろしいでしょうか。はい。それですが、ちょっと単純な比較がしづらい構成になっていまして、現状値というのは、令和3年4月から翌年3月までの1年間の数字がここに挙がっています。実績値というのは今年度、上半期の数値ということなので大体半分ぐらいいいっていれば良いところかなと。6カ月分の数字。現状値は1年分の数字ということで。そういう構成になっています。目標値については、1ページで言えば、そこには少し及ばないものもあるというところでしょうか。②貸出冊数は2倍しても23万には到達しないのでそこは伸び悩んでいる、コロナ前に戻りきれてない。そういうところかなとは思いますが、①、③については2倍、1年分とすれば大体いいところの数字かなと思います。現状値、目標値は年間の数字、実績値は半年分の数字ということになります。

次の7ページ目に行きまして、④新規利用登録者数については、5カ年の目標を設定したときにここまで新規利用登録が伸びると、実際思っていなかったのですね。電子書籍もまだ予定に入っていなかったというので、ここについてはすごく逆に伸びている。令和3年度1年分で現状値1,431とか、目標値の1,800に比べて、半年間でそれに迫るような伸びを見せているのが④になっています。⑤、⑥については、大体標準値といいますか、目標どおり。⑤インターネット予約貸し出しサービスの貸出冊数については伸びが大きい。ちょっと説明がたどたどしいですが、9月実績値半年分の14,345を2倍すれば、現状値、目標値よりも大きくなるいうことで、伸びとしては悪くはない数字だとは思います。⑥の行政支援サービスの受付件数としましては、これを設定したときに、『北海道史』、『新しい北海道史』という言い方をしているのですが、そこの編纂事業がすごく伸びていたときで、そこからの問い合わせがもっと増えるのじゃないかという見込みがあったのですが、そこまでの伸びにはなっていないというところです。1ページ目と7ページ目については、このような説明になります。よろしいでしょうか。

次が、具体的にいうと④のようにすごく伸びているところ、そこの目標値の設定を見直さないのかというところなのですが、昨年度も館内では話題になったのです。ただ、これをどこまで上乗せするかというのもなかなか読み切れない、ということもありまして更正といいますか、修正といいますか、それをかけるというところまでは至らなかったという状況です。また次の5カ年の切れ目のときには、改めて数字を見直すということにはなると思うのです

が、今の段階で具体的にどのように見直すというところまでは至っていないという現状です。よろしいでしょうか。

○（河村会長）
はい。いかがでしょうか。現状値、実績値、目標値の扱い説明いただきましたが。関連してでも構いませんしほかのことでも構いません。何かほかにございませんでしょうか。はい、お願いいたします。

○（三ツ山委員）
委員の三ツ山です。よろしくお願いします。
書庫ツアーについて伺いたいのですけれども、書庫ツアーの告知はどのようにされているのかというのを、再度教えていただきたいということと、来年度、定員や回数を増やすことは難しいのかどうかいうことを併せてお願いします。

●（原一般資料サービス課長）
はい。では、子ども書庫ツアーと11月の書庫ツアーですが、子ども書庫ツアーにつきましては、一応子どもが来られるということで、あまり遠隔地の方は来られないだろうというところで、道立図書館のホームページや、近隣に配られる「まんまる新聞」、あとカウンターに来ているお客様にチラシの手渡しというような形で募集をかけておりました。今年度につきましては、夏休み期間中ということで平日開催をしてみたのですが、思ったよりは集まらなかったということもあり、来年度は祝日、又は土日の開催等を考えているところです。
11月に行った書庫ツアーも同様で、ホームページや近隣の図書館にチラシやポスターを配ったりとか、あとは近隣に配られる「まんまる新聞」へ広報をお願いしたという状況になっております。

●（西岡北方資料サービス課長）
北方資料室のツアーについても周知については、ほぼ同じであります。ホームページへの掲載、新聞社への情報提供、それからSNSといったような方法でお知らせをしております。
人数、定員についてでしたけれども、大変希望が多いということもありまして、定員20としていても、それ以上のお問い合わせを実際いただいております。大変残念なところではあるのですが、一方で書庫の中を御案内し資料を見ていただき、といったようなツアーの内容からして大体20名程度が、皆さんに資料を見ていただき、こちらの説明の話が届きといったような部分でのいい塩梅が20ぐらいなのかなというところはあります。かつて、もう少し多い人数で行っていたこともありますが、コロナ以降、沢山の人があまりに密集し過ぎず、

できるだけの皆さんに見ていただきつつ、御案内の会場、説明のしやすさといったところから、近年、20名といったところに落ち着いているといった状況です。

それから実施の回数ということにつきましては、北方資料室の場合は年1回行っておりますが、その辺りはほかの事業とも考え合わせながら検討していきたいと考えております。以上です。

○（河村会長）

はい。よろしいでしょうか。ほかございませんか。

○（乗田委員）

北海道地区大学図書館協議会の乗田です。

新規登録者数を増やすためにいろいろと工夫され、非来館型サービスの充実ということで、遠隔地の方の利用登録においても様々な企画をなされていますが、イベントを地方でも開催されているようですので、そのイベントと抱き合わせた出張利用登録会がかなり有効だと思いました。

一方で、読書バリアフリーに対応したサービスの充実という点で、やさしい日本語を使用した利用案内の整備など行っていますが、北海道も外国人が増えてきていると思いますので、外国人の利用登録会を、例えば日本語学校等で実施するなどの計画はないのでしょうか。せっかくいろいろ工夫されて、利用サービスの充実を図っていますので。多くの外国人が利用できる仕掛けや広報も重要ではないかと思いました。

もう一点、中間報告とは関係ありませんが、遠隔地の方への電子図書が普及している一方で来館されている利用者も多いと思います。が、先日少し大きな地震がありましたが、人の安全を守るということ、この守るという観点からの安全対策への取組について教えていただければと思います。

●（原一般資料サービス課長）

はい。一般資料サービス課原です。

出張利用登録会につきましては、うちからの働きかけももちろん必要なのですが、相手側からの働きかけ、やはり向こうに行って場所を借りて行うということもあるので、どうしても向こう側の窓口の方との繋がりが最初に必要というところがあります。

日本語学校等につきましては、今のところまだ付き合いがないということもありまして、今の段階ではそのようなことは予定されていない状況になっています。

ただ、紀伊國屋のインナーガーデンで行っている出張利用登録会では、北大の留学生の方もけっこう来られることが多いという状況でありまして、そのようなところで少し外国の方の登録があるという状況になっております。

あとは近隣のところではまだなかなかそのような形での働きかけはできてない、という状況になっておりますが、機会があれば、そのようなことも考えていきたいと想います。

●（中田利用サービス部長）
利用サービス部長の中田でございます。
地震の対応についてなのですが、「危機管理マニュアル」というものをまとめておりまして、地震だけではなく全般的なもので1案件につき1枚程度の簡便なマニュアルなのですが、地震に関してもその1項目になっています。先日、日中に震度3の地震があった際にもそれに則り、カウンターの職員は「書架の間から出てください」と声をかけるとか、地震が収まった後に職員が書庫の中を見回って確認すると。どこの図書館もそうだと思うのですが、職員のほかに委託業者の人たちとか、ボランティアさんも入っているものですから、その辺は気をつけて「今日ボランティアさんが来ている」とか、「今日委託業者のTRC（図書館流通センター）さん何人出勤していますか、全員いますか」というようなことを確認したりしました。基本は、「危機管理マニュアル」に則ってやっております。以上です。

○（河村会長）
はい、ありがとうございました。危機管理についても御回答いただきました。
ここの会場におられる委員の方は一通り御発言いただきましたが、Zoomで御参加の委員の方がいらっしゃいますけれど、いかがでしょうか。はい。お願いします。

○（村橋委員）
質問してよろしいでしょうか。

○（河村会長）
はい。お願いします。

○（村橋委員）
委員の村橋と申します。本日はありがとうございました。
電子書籍に少し戻るような形になるかもしれないのですけれども、読書サポートツールについてちょっとお伺いしたくて。障がいのある人へのツールが大分増えているということなのですが、電子書籍が館内で体験できる、例えばタブレットや、タブレットだけではないとは思うのですけれども、パソコンもそれに当たると思うのですが、電子書籍が体験できるようなツールが道立図書館にはあるのかどうか、すいません知らないので、ちょっとお伺いしたくて、少し質問させてください。

●（原一般資料サービス課長）
　電子書籍を館内で使おうと思った場合ですと、利用者のインターネット用の対応端末が4台あります。こちらを使用して御覧いただくことが可能となっております。

○（村橋委員）
　それは検索する端末と一緒のものなのか、違うものなのかということを伺います。

●（原一般資料サービス課長）
　館内で図書館の資料検索してもらうOPAC用の端末は別にございまして、インターネット用の端末はまた別に4台、あと北方資料室にも2台インターネット用の端末がありますので、合計で6台の端末で見ていただくことが可能となっております。

○（村橋委員）
　はい、ありがとうございます。

○（河村会長）
　はい、ありがとうございます。
　電子書籍は今、スマートフォンでも、皆さん見ようと思えば見られるようです。画面が大きいほうがいいですけれども。だんだん、そのような各個人の端末持ち込みが多くなってくるのかな、とは思いますけれど。ほかございませんか。はい。お願いします。

○（藤田委員）
　浦河町立図書館の藤田です。私から2点質問させてください。
1点目ですが、電子書籍の選書に関してなのですが、先ほどリストを見て選書をすると伺ったのですけれども、そのリストを見てこの本を買おうと思ったときに、実際にインターネットなどで購入しようと思っている電子書籍の中身を見て決めることができるのか、ということをお伺いしたいです。
　あともう1点なのですけれども、ちょっと全然別な質問になりますが、概要版ではなく中間報告のほうの12ページ、多様な情報を発信し続ける図書館の取組内容と実施状況、右側の実施状況の（1）のところで、各種アンケートを実施していると書いてあるのですが、このアンケートが、具体的にどういった内容のものを、どういった方にとっているのか教えていただきたいと思います。お願いいたします。

●（今野資料整備課長）
　まず一つ目の質問について、資料整備課今野から説明いたします。

先ほど紀伊國屋書店からリストをもらって選書していると言いましたけれども、それこそ第1回目分につきましては8カ月ぐらいの期間なのですけれど、それだけでもけっこう…、1万近くのものがリストとして出てまいりました。なので、中を見て決めるというよりは、基本的には紙の本として出版されてるものがほとんどなので、紙の本のデータと同じような形で、まず確認をするというような感じになっております。一つ一つ電子書籍として何かを見て決めてるわけではございません。

●(伊藤企画支援課長)

企画支援課の伊藤でございます。お世話になっております。

もう一つの質問で、中間報告の12ページの1の実施状況(1)の各種アンケートということでございましたが、企画支援課で道内の市町村にお願いして、今年度は特にいろいろなアンケートをとっていたのですが、市町村支援事業で市町村に伺うこともあるのですけれども、それ以外の市町村についても、本年度は、例えば道立図書館がどのような支援事業をしたら良いでしょうか、というようなアンケートは毎年のように行っていたりですとか、あとは北海道図書館振興協議会でも各種アンケートをとることがあるのですが、今年は企画や広報に関するものについて、アンケートと言いますか、調査研究のために調査を行ったりしていて、それを道立図書館の事業にも反映させるようにしてはいるところです。

●(工藤一般資料室長)

ちょっと補足させていただきます。一般資料室長工藤でございます。

電子図書館の選書についてなのですが、先ほどもちょっと説明しました当館で購入していないものについても試読が可能ですので、我々が選書するとき、図書館流通センターの全点案内を活用して、そこに出てる内容や情報などを基に選書することが多いのですけれども、必要に応じて、例えば書店に調査に行って手に取るということをやるように、全部ではもちろんないのですが、試し読みの機能を使って頭の、少ないものだと10ページぐらい、多いものだと4、50ページほど見られるものもあったりするのですが、そういったものを使って現物を見るという選書ももちろん行っております。

それから先ほど河村会長からちょっと質問があった…質問という形じゃなかったのですが、コンテンツの一覧なのですけども、今、大体11万点、KinoDenでは電子書籍を発行しているので、そのリストを全件、紀伊國屋書店さんからOKをもらえればもちろん可能ではあるのですけれども、その11万点のエクセルのシートのコンテンツデータ、かなり細かい情報まで入っているものですから、それを公開するとなるとホームページの状況も含めてちょっと検討が必要かなとは思うのですが、KinoDenのホームページに最近出たコンテンツの紹介ですとか、出版社がこういうセットを作りましたというようなところは随時紹介してくれているので、そこへ繋ぐリンクぐらいは、このあと当館のホームページの作成で可能かなと

思います。そこについては検討してみようと思います。補足、私からは以上になります。

●（中田利用サービス部長）
私からも補足の補足、よろしいでしょうか。
電子書籍なのですけれども、未所蔵を含めるというコードが道立図書館で購入しているもの以外のものからも検索できるというラジオボックスがありまして、それを選択しながら特に何もキーワードを入れずに「検索する」を押すと全部見ることができます。11万点がずらっと、ただただ見ることができます。
そのためには、とにかく利用登録、カードを作っていただくということが条件ですけれども、ホームページで全部を公開するということはできませんが、利用者であればそういう見方もできますので、御利用いただければと思います。

○（河村会長）
ありがとうございます。
今、ちょうど藤田委員から質問されたことと絡めて、私も疑問に思っていたことをお答えいただけて大変嬉しいでのすけれども、未所蔵のものも紀伊国屋のほうで試し読みができますよということなので、道立図書館のホームページで、そういう連携を取るというか、もう既にリンクは貼られているのでしょうから、そのような形で試し読みができますというので、11万冊でしたか、それだけの電子書籍がある中から希望のものがあれば、道立図書館が持っていないものがあれば、リクエストができますよというような、ホームページを通じたシステム構築をすると…。11万の中から…、やっぱりいくら図書館といえども、これが図書館に置いておくべき本だということを当然考えながら選書されるのでしょうけれど、非常に大変な作業だと思います。それが利用者のニーズに合っているかどうかということを含めていくとなると、やっぱりリクエスト制度をもう少し活用するといいのかなと。一般市民があまり知らないし、今、そういうお話をいただいたように、11万点が試し読みができるのですよと、ちょっとのあいだ。それで関心を持ったら、道立図書館にあるかどうかを検索してもらう、なければリクエストして購入依頼をかけてもらうと。もちろんリクエストされた内容の取捨は道立図書館さんのほうでするわけですけれども、市民がどのようなニーズを持っているのかということを把握するのは、先ほど小澤委員のほうからもお話いただきましたように、昔でいうところのログ調査ですよね、検索…、昔コンピュータが導入されたころしていたようなことの基本に立ち返るというのかな。だから今後、ますます良い発展が電子図書館には望めるのかなという気がして、伺っておりました。
すいません。ずいぶんまとめたようなことを言ってしまいましたけれども、どうですか。あともうひと方参加されてますよね、Zoomで。いかがでしょうか。ありませんか。
もう御質問・御意見等ございませんでしょうか。はい。では、大体皆さんに御意見をいた

だき、実りある協議会が実現できたと思いますけれども、ちょうどいい時間になっておりますので、次の議題に移っていきたいと思います。

その他の事項について1点、情報提供があると伺っておりますので、図書館側から御説明いただければと思います。

●（伊勢総務企画部長）

総務企画部長の伊勢でございます。皆様のお手元に、こちらの資料があるかと思いますけれども、こちらの真ん中に写真で写っておりますポプラの木がある当館の前庭が、「第21回　江別市都市景観賞」の特別部門を、今回受賞いたしましたので、その事について説明させていただきます。以下着座にて説明をさせていただきたいと思います。

ただいまお話しました「江別市都市景観賞」は、江別市の美しい都市景観を作り出している建物や美しい都市景観の向上・維持に努めている活動などを市民の方々から推薦していただき、特に景観の向上に貢献しているものを表彰する制度として1987年に始まりその後、2001年以降は3年ごとに行われているものです。

建造物部門と特別部門があり、実は当館のこの建物自体も、第2回のこの景観賞の建造物部門において既に受賞しているところでございます。21回目に当たる今回につきまして、本年の6月から8月にかけて募集が行われ、特別部門は21件が集まり江別市景観委員会が書類選考と現地調査により、ポプラが美しい自然景観のシンボルとなっており、のどかな雰囲気でとても和む居心地の良い環境であると評価され、21件から唯一特別部門において選定されたとのことであります。

2日前の12月15日に表彰式が行われ館長が出席し、ちょうど今三ツ山委員が御覧いただいてるのですけれども、賞状とあと写真もいただきまして、副賞として置物をいただいたところでございます。

このポプラの木は昭和42年、江別市に当館が建設された際に全道各地から贈られ植えた樹木の一つで、その大きな樹影は国道12号線からも望むことができる当館のモニュメントの一つとなっておりまして、綺麗に整備された周りの芝生とともに、子供たちの遠足や市民の憩いの場として長く利用されてきております。

このように、江別市民に注目されている道立図書館でありますが、運営の基本方針の一つである道民みんなの図書館として、協議会委員の皆様から本日いろいろな御意見をいただいたところもあり、そのような意見を参考にして、これまで以上に充実した図書館サービ

スを展開してまいりたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いしたいと思います。私からの説明は以上でございます。

○（河村会長）

はい。 ありがとうございました。都市景観賞を受賞されたということの御紹介でした。

全体通して、御意見ございませんでしょうか。これで一応、本日の用意されていた議題は議論されたということになるのですけれども、大丈夫でしょうか。

はい。では、以上で予定されていた議題の審議全て終了となります。委員の皆様方、大変ありがとうございました。

●（原田管理課長）

河村会長、議事進行ありがとうございました。 1点訂正がございます。冒頭、御報告させていただきました出席者数の関係ですけれども、9名に訂正をさせていただきます。

次回、令和7年度第3回協議会につきましては来年2月下旬から3月上旬の開催を予定しております。議題につきましては、「令和8年度北海道立図書館運営計画（重点計画）について」を予定しております。

それでは閉会にあたりまして、館長の岸本より御挨拶を申し上げます。

●（岸本館長）

第2回北海道立図書館協議会閉会にあたりまして御挨拶申し上げたいと思います。

本日は、今年度上半期の実施状況を御説明いたしましたけれども、長い時間にわたりまして熱心に御協議いただくとともに、様々な視点から貴重な御意見をいただきまして深く感謝を申し上げます。

本日いただきました御意見も踏まえまして、今年度の運営計画に定める目標の達成にとどまることなく、職員一丸となり各施策や事業のより一層の推進と、広く道民の皆様へのサービスの向上を目指して、図書館機能の更なる充実に努めてまいりたいと考えておりますので、引き続き委員の皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

なお次回の第3回会議では先ほど申し上げました通り、来年度の運営計画案を御説明させていただきますとともに、図書館支援事業を始めとした来年度の事業計画をお示ししたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。以上閉会にあたってのお礼とさせていただきます。

委員の皆様には本年も大変お世話になりました。良いお年を迎えられますようお祈り申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

●原田管理課長

以上で終了となります。どうもありがとうございました。